

逗子の景観まちづくり

瓦版 第八十七号

二〇二五年八月十五日 次号は十月発行予定

編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp



「夏の夜の旧徳川家達別邸」

この建物は、大正元年に建てられ、大正六年から昭和初期まで徳川十六代家達の別邸として使用されました。平屋の日本家屋で、逗子海岸を見下ろす長い廊下に沿って和室が四間一列に並んでいる。天気が良ければ相模湾と富士山と江ノ島をすべての部屋から眺望できて、景色を愉しめるよう造られた別荘でもあったのです。

徳川家達は幼少の折に、十三代將軍家定に嫁いだ篤姫に可愛がられ、また、十四代將軍家茂の正室に迎えられた皇女和宮にも愛されました。幕末から明治維新にかけて幼年期を過ごし、五歳で徳川宗家十六代当主となる。彼は留学してイートンカレッジ（ケンブリッジ大学姉妹校）を卒業後、やがて明治天皇、大正天皇、昭和天皇に仕え貴族院議長を務めます。

その家達はワシントン会議（史上初の軍縮会議）で日本の全権大使として渡米。会議の結果、米国に対し日本は6割の軍艦を保有（経済は米国の十分の一）できることに。しかし国民は米国と同じ数の軍艦を持ちたいと猛反発。国際感覚の欠如した世論にがっかりしながら家達は逗子の夜空を眺めたのでしょね…。家達邸母屋の東側には離れがあります。当時の徳川家では息子と娘（男女）が同じ建物では寝ないしきたり。なので家達の孫息子は離れで寝ていました。

徳川のお嬢様たちの話では、お兄様（孫息子）は離れでウクレレを弾いて歌ったり、軽快な足取りでヨットに乗りに行く。美男で背の高い青年だった。ところが彼は東北大学在学中に病死。家達はその孫の姿を思い浮かべるのが辛く、この別邸を手放します。そんな徳川公の想いを辿りつつ歩いてみませんか。

絵・文 三浦 恒義

「旧徳川家達別邸」周辺を歩く

田越川河口近く富士見橋のすぐ脇に、かつて徳富蘆花と国木田独歩が新婚時代を過ごした旧柳屋旅館の跡地があります。その脇道を抜け、クランク状の坂道を登ればそこに旧郷土資料館が見えてくる。



「旧徳川家達別邸の離れ」

海の家にも景観を守るためのルールがあるのをご存じですか？



～国道側からの眺め～

国道側は景観への影響が大きいので、広告物の掲出は控えてください。



～海側からの眺め～



海の家は「海水浴場の利便に供する施設」として特例的に広告の掲示が認められています。
逗子の美しい景観を保つために、色彩やデザインも周辺環境に配慮するなどをお願いしています。

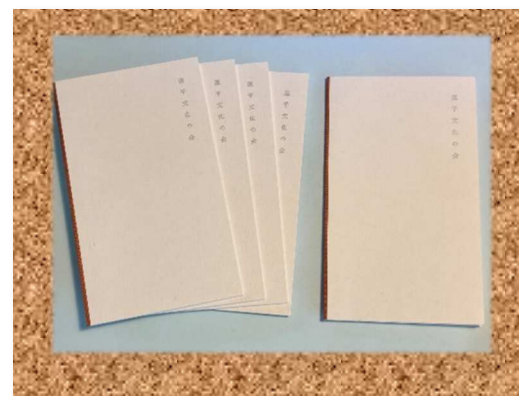


逗子文化の会オリジナルの「野帳」ができました

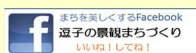
逗子文化の会では、オリジナルの「野帳」を制作しました。野帳とは、手帳やメモ帳、小さなスケッチブックとしても利用していただける小さな無地のノート。表紙には「逗子文化の会」の文字がシンプルに入っています。ドイツ製本という、表表紙・裏表紙・背表紙をそれぞれ別仕立てで作成して取り付けるという、手間のかかる方法で、小さいながら存在感のある仕上がりになっています。

当会が秋以降に予定しているまち歩きでは、資料とともにこの野帳をお渡しします。

ぜひ野帳を携えてまち歩きをしながら、見つけた風景をスケッチやメモに残し、後日、瓦版などで発表していただければ面白いのではないかと考えています。



瓦版編集担当 逗子市環境都市部まちづくり景観課



逗子市 HP やフェイスブックも見てね！

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。